

「中津小学校の中津はんや伝承活動の取組」

1 学校名

薩摩川内市立中津小学校

2 学年・人数

小学1年生から6年生（計15人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和元年6月～11月 中津小学校体育館

令和元年10月21日（月）・24日（木）上甕コミュニティセンター

(2) 発表の日時・場所

令和元年10月26日（土） 第10回はんやジュニア大会（市長賞受賞）

令和元年10月27日（日） 第14回上甕ふるさと総合文化祭

令和元年11月17日（日） 令和元年度甕大明神マラソン大会アトラクション

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事や史跡について

(1) 名称

中津はんや（なかつはんや）

(2) 由来

古くから、天草の「ハンヤ節」が南下し、阿久根、川内、坊津などの港に移入したもので、奄美の「八月踊り」の六調子のリズムを加えてお座敷唄になったと言われている。その後、「正調川内はんや」として受け継がれていたものに、曲調を替えた現在の「ロックはんや」につながると思われる。

(3) 構成等

「甕の大自然」をテーマに、「甕の海の美しさ・荒波のすごさ」「力強い漁師の姿」「海の魚たち」などになぞらえた振り付けを行っている。

大漁旗を掲げる所作は、中津の子供と島民全体の一体感を表し、「ふるさとを愛する心」を捧げる。古くから伝わる「ほら貝」の音で、海の安全と大漁を祈っていると伝えられる。

5 保存会や地域との連携の具体

平成23年3月、これまで「はんや踊り」に取り組み、全国大会にも参加するほどだった薩摩川内市立平良小学校が閉校し、薩摩川内市立中津小学校に統廃合された。統廃合に伴い、中津小が平良小の伝統を引き継ぐ形で取り組むようになった。平成24年から、中津小の運動会や学習発表会、上甕町の文化祭、甕大明神マラソン大会アトラクション等で、児童によるはんや踊りを披露した。従来は、学校の教育活動として伝承活動を位置付けてきていたが、授業時数の削減等により練習時間を授業の中だけで位置付けることが困難となってきた。そのため、平成26年度から学校が事務局となり、保護者の全面的な支援の下、「中津はんや隊育成会」を発足させ、中津はんや踊りを上甕地区全体の郷土芸能として位置付けた。平成29年度は、児童数減に伴い、会員を小学1年生から6年生とし、地域ぐるみで踊りを伝承していく体制を整えた。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら中津はんや踊りを継承していくために、学校に「中津はんや隊育成会」事務局が置かれている。今後も継続して地域と連携して中津はんや踊りを伝承していける体制を整えた。

また、「地域の郷土芸能は地域で守り育てていく」という自覚を促すため、中津はんや隊指導者会が中心となって伝承していく体制をとるようにした。

さらに、市のはんやジュニア大会や上甕ふるさと総合文化祭、甕大明神マラソン大会参加等を伝承活動の主たる活動として位置付けた。現在時々参観にきている卒業生も指導者として踊っている状況を発展させ、将来的には、中学生が小学生に踊りの指導を行う体制を構築していきたいと考えている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



第9回薩摩川内はんやジュニア大会に出場



はんやジュニア大会市長賞受賞記念写真



上甕ふるさと総合文化祭での発表



甕大明神マラソン大会アトラクションへの参加

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

今年は、昨年よりもさらに人数が減り、5年生がリーダーとなってみんなをまとめてきました。はんやジュニア大会やふるさと総合文化祭、甕大明神マラソン大会で、多くの人前で踊ることができました。【5年生児童】

ふるさと甕島の大自然をイメージした力強い動きや息の合った踊りは、上級生から下級生へと脈々と受け継がれています。地域の方々の温かい応援のもと、元気いっぱい表現する子供たちの姿にパワーをもらいました。【保護者】

今年度は、これまで中心となっていた指導者が代わり、新体制で臨むこととなりましたが、パートごとに役割を分担するなど工夫して、これまでの踊りを継承していくことができました。【育成会】